

ネット上のアイヌコミュニティにおけるアイヌ語学習

片山 和美

アイヌ民族は東北地方北部から北海道、サハリン(樺太)、千島列島に及ぶ範囲に先住しアイヌ語を話し生活していた。しかし、和人(アイヌ以外の日本人)が北海道に移住し、多数派になったことにより仕事や公的な手続きなども日本語を使うことが強制されるようになった。差別や迫害を受け、アイヌ自身がアイヌ語を使うことを断念していった。

アイヌ語を流暢に話せる母語話者がこの世を去っていく中、1980年代以降、アイヌ語を残そうとするアイヌ自身の動きにより、子供を対象にしたアイヌ語教室が開設された。それをきっかけに、北海道各地にアイヌ語教室が設けられた。

また、1997年「アイヌ文化振興法」が施行され、アイヌ語の振興は音楽、舞踊、工芸と共に主要な施策の一つに位置づけられ、北海道外でもアイヌ語教室が開かれるようになった。

近年ではインターネットの普及に伴い、講師と生徒が教室に集まり学習をする、従来の学習スタイルにも変化がみられるようになった。SKYPE等のインターネット電話サービスを利用したアイヌ語学習や、投稿動画サイトでの動画配信など、様々な形で行われるようになったアイヌ語学習の自身の取り組みについて述べたい。